

第45回 断層映像研究会 抄録集

大会長：金澤 右 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科放射線医学)

会 期：2016年10月21日(金)・22日(土)

会 場：岡山国際交流センター

この^{チャンス}機会を逃すな、一流に学ぶ画像診断

1 日目

2016年

10月21日(金)

セッション1

診断根拠となる画像所見 小腸大腸のCT

.....

笹井 信也
岡山画像診断センター

診断過程で注目すべき点を症例を通して学んでいこう。一見、非特異的像でも、目の付け所で本質が見えてくることがある。どうして感染性腸炎は右結腸で虚血性腸炎は左結腸なのか？病変の性格が画像にどう反映されるのか？CTの普及で小腸大腸の病変の評価が日常的になっている。診断根拠となる画像所見を知ることがあなたのCT診断に役立つことを願っている。

側頭骨画像診断 苦手意識を払拭するためのコツ

.....

外山 芳弘
高松赤十字病院 放射線科

側頭骨画像診断は総じて皆苦手である。香川県内の放射線科医へのアンケート調査でも約7割の人が苦手と答えた(得意は0%)。一方、耳鼻科医へのアンケートでは38%が我々の所見が不十分と回答した。耳鼻科医からは中耳炎と真珠腫の鑑別、治療方針を左右する解剖学的構造、悪性腫瘍の鑑別などが必要との意見であった。本講演では苦手意識を払拭し、耳鼻科医を満足させる画像所見のコツを解説する。

セッション2



心臓 CT—日常臨床に必要な読影の知識—

立神 史稔
広島大学病院 放射線診断科

心臓 CT は放射線診断医にとってなじみの深い領域とは言えませんが、件数は年々増加しています。本講演では診断に必要な知識に加え、頻度の高い疾患をピックアップし、読影のポイントや注意点を解説したいと思います。

腎腫瘍の CT 診断：
機器の性能を最大限活かして、最大限の情報を主治医に伝えるために

高橋 哲
神戸大学医学部附属病院 放射線部

小径腎癌の治療としてガイドラインは外科的部分切除術を推奨しており、本年にはロボット支援下腎部分切除術が保険適用となり、より低侵襲な治療が可能となってきた。技術の進歩に伴い外科医が術前画像に求める情報も、単純な血管の本数にとどまらなくなっている。画像診断に携わる者は臨床背景を理解して、画像診断機器の特徴を最大限活かして要望に応える必要があり、事例として私どもの施設における腎 CT 検査の実際を紹介する。

セッション3



血管腫・血管奇形の画像診断

野崎 太希
聖路加国際病院 放射線科

軟部腫瘍 — Common disease の画像スペクトラム

青木 隆敏
産業医科大学 放射線科学教室

臨床の場では、典型的所見を示す稀な疾患よりも、非典型的所見を示す common disease に遭遇する機会の方が多いため。本講演では、脂肪腫や神経原性腫瘍など、日常臨床でよく遭遇する代表的軟部腫瘍について、知っておきたいバリエーションを述べる。バリエーションの認識は common disease の本質的な病態・病理の把握に繋がり、画像の成り立ちを含めた知識の整理にも役立つと思われる。

セッション4



一期一会

.....

小山 貴
倉敷中央病院 放射線診断科

症例との出会いというのはまさに一期一会と思うことが少なくありません。画像診断が検査前には全く思いもよらぬ結果を導き出すような場合にはなおさらであり、時としては被験者の方には思わしくない結果となることがあるかもしれませんが、自分がそのような症例と出会う機会に恵まれたことを幸甚と思うことがしばしです。今回のセッションにおいてはそのような症例を参加者の方々に供覧させて頂きたいと思えます。

2 日目

2016年

10月22日(土)

セッション5



肝内胆管癌の画像診断

小坂 一斗
金沢大学附属病院

腫瘍形成型肝内胆管癌 (mass forming ICC: m-ICC) は増加傾向にある癌腫の一つである。近年では画像診断の進歩により小型胆管癌を診断する機会が増えている。m-ICC はその発生母地から大型胆管、小型胆管、細胆管由来に分類され、ダイナミック CT で増殖形態・血流の多寡を見ることで分類が可能である。大型胆管から発生した m-ICC は乏血性であることが多く、腫瘍内に大型胆管の貫通が見られる。小型胆管、細胆管から発生した m-ICC は多血性であることが多い。

腫瘍 FDG-PET/CT 診断のポイント～ピットフォールに陥らないために～

北島 一宏
兵庫医科大学 放射線医学講座 核医学・PET 診療部

FDG を使った PET 検査は、多くの悪性疾患に感度が高く、治療前の病期診断、治療後の再発・転移診断、治療効果判定などに有用で、今や癌患者さんのマネージメントに欠かすことのできない検査となっています。しかし、実際の診断では、PET 特有の偽陰性や偽陽性の問題があり、診断に苦慮する事が少なからずあると思います。本講演では、ピットフォールをできる限り多く紹介し、落とし穴に落ちない為の秘策をお話したいと思います。

セッション6



間膜・腹膜とその外についての画像診断

一色 彩子

日本医科大学武蔵小杉病院 放射線科

腹膜外腔は意外に容積の大きな潜在腔である。体腔を裏打ちし、時に複雑な襞を作りながら臓器を覆い、または吊しているこの膜そのものやその外側についての知識は放射線科医の視覚的な好奇心を刺激するものであるのみならず、変則的な腹部病変の把握に役立つことがある。「玉葱の様」な体壁の構造について、シェーマと症例を中心に親しみやすいアプローチで復習していきたい。

軟骨下脆弱性骨折とその関連疾患：その理解のために

山口 岳彦

獨協医科大学越谷病院 病理診断科

軟骨下脆弱性骨折 (subchondral insufficiency fracture (SIF) of femoral head) は、高齢者に好発し、背景に骨粗鬆症や肥満がある。SIF には病初期の単発性骨梁微小骨折から進行した骨頭圧壊まで様々な病態が含まれる。臨床的あるいは組織学的に idiopathic osteonecrosis (ION) of the hip と鑑別を要する。SIF と ION の画像所見は類似するが、その意味する組織学所見は異なる。SIF や ION の経時的な組織学的反応・所見を理解することは、画像読影や鑑別疾患に役立つ。SIF の関連疾患として、rapidly progressive arthrosis of the hip、transient osteoporosis of the hip、spontaneous osteonecrosis of the knee がある。

セッション7



頭蓋底は抜け道だらけ ―治療方針を左右する CT・MRI 所見―

浮洲 龍太郎

北里大学医学部 放射線科学(画像診断学)

頭蓋底は頭蓋内と頭頸部の間をなす骨性隔壁である。頭蓋底の多数の小孔・裂溝とそれらを貫く神経・血管は、腫瘍や炎症の進展路として重要である。近年の頭蓋底手術の発展もあり、この領域の病変において、診断と治療方針の決定に CT・MRI が果たす役割は大きい。臨床的に特に重要な頭蓋底の小孔・裂溝に絞って、症例を骨標本やシェーマなど対比しながら、CT・MRI 診断時のポイントとピットフォールについて概説したい。

産婦人科疾患の症例と解説 ～ あなたならどう考える？

三森 天人

姫路赤十字病院 放射線科

本講演では産婦人科疾患の画像診断について、子宮および卵巣の症例を各3例ずつ計6例のMRI画像を提示し、診断を本会参加の方々に考えていただき、その解説を行う。日常遭遇する疾患のやや変わった variation から稀な疾患まで含まれており、診断には至らなくても良悪性の鑑別や次のステップへの指示なども含め、日常診療に即した内容で解説する。

セッション 8



治療関連中枢神経疾患の画像診断

古川 又一
山口大学 放射線科

中枢神経疾患に対する治療法が多様化・複雑化する中、治療に関連した疾患や病変にもしばしば遭遇する。代表的なものとして放射線治療、抗がん剤や免疫抑制剤等の薬剤に関連するものがあげられるが、放射線科医がそのような疾患を正しく理解・診断することは、適切な対処・治療が行われるためにも重要である。本講演では、比較的遭遇頻度の高い治療関連疾患や、おさえておきたい画像所見につき CT や MRI 所見を中心に解説する。

限局性肺すりガラス影病変の全て。

加藤 勝也
川崎医科大学附属川崎病院 放射線科

肺における消退しない限局性すりガラス影病変の大部分は、肺胞置換型進展を呈する高分化腺癌である。すりガラス影肺癌の病理所見は？ 消退するすりガラス影とは？ 肺癌以外の消退しない肺すりガラス影病変は？ これらについて病理所見をまじえながら呈示し、さらに実臨床で問題となるすりガラス影肺癌の取扱いについて示す。本講演が日頃遭遇する機会の多い肺限局性すりガラス影病変の適切なマネージメントに役立てば幸いである。

ダウンロードされた論文は私的利用のみが許諾されています。公衆への再配布については下記をご覧ください。

複写をご希望の方へ

断層映像研究会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。

本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。但し、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写権センター（社）学術著作権協会が社内利用目的複写に関する権利を再委託している団体）と包括複写許諾契約を締結している場合にあっては、その必要はございません（社外頒布目的の複写については、許諾が必要です）。

権利委託先 一般社団法人学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 3F FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

複写以外の許諾（著作物の引用、転載、翻訳等）に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。

直接、断層映像研究会へお問い合わせください

Reprographic Reproduction outside Japan

One of the following procedures is required to copy this work.

1. If you apply for license for copying in a country or region in which JAACC has concluded a bilateral agreement with an RRO (Reproduction Rights Organisation), please apply for the license to the RRO.

Please visit the following URL for the countries and regions in which JAACC has concluded bilateral agreements.

<http://www.jaacc.org/>

2. If you apply for license for copying in a country or region in which JAACC has no bilateral agreement, please apply for the license to JAACC.

For the license for citation, reprint, and/or translation, etc., please contact the right holder directly.

JAACC (Japan Academic Association for Copyright Clearance) is an official member RRO of the IFRRO (International Federation of Reproduction Rights Organisations).

Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC)

Address 9-6-41 Akasaka, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan

E-mail info@jaacc.jp Fax: +81-33475-5619